



— 特集 —

若者も主役のまち 東海村

若者も「ひとりの村民」として参画できるまちづくりを目指して

「こどもまんなか社会」と聞いて、皆さんはどんなまちを思い浮かべますか。

令和5年4月に「こども家庭庁」が創設され、同時に「こども基本法」が施行されました。「こども基本法」は、子どもや若者の皆さんが、自分らしく成長でき、幸せに暮らせるような社会を実現するため、子どもや若者に関する取り組みの基本となることを定めた法律です。これまで、大人が中心であった国や社会の形に「こどもまんなか」の視点も取り入れていくためには、子どもや若者の声を聴き、まちづくりにいかに反映できるかが重要となります。

村でも、「東海村高校生会」など、青少年の活動を支援する取り組みを長年継続してきましたが、若い世代がまちに興味を持ち、まちづくりに参画する機

会をさらに充実させたいとの思いから、令和6年4月、地域戦略課内に「わかもののまち推進担当」が創設されました。若者の「やってみたい」を応援するためのプログラムや、県立東海高等学校と連携して、高校生が地域に飛び出して魅力を探究する授業などを展開しています。

今回は、村が実施する若者のまちづくりに関するプロジェクトを、実際に参画している若者の声と共にお伝えします。

【問い合わせ】地域戦略課わかもののまち推進担当 (☎282-1711 内線1339) ※6ページについては、生涯学習課青少年担当(歴史と未来の交流館内 ☎287-0851)へお問い合わせください。



ー 高校生まちづくりスクールー 自分の「関心」からまちづくりを学ぼう



2



3

1_第1回スクールの様子。「もし、自分が村長だったらどんなマニフェストをつくるか」を発表しています
 2_これから共に活動するメンバーへ自己紹介
 3_自分の関心からマイプロジェクトを作成
 4_高校生まちづくりスクール第1期生で集合写真



4

全5回の活動の中で、自分の興味・関心とまちの課題や資源を掛け合わせて「マイプロジェクト」を企画・立案し、実行するプログラムです。まちづくりについて実践しながら学び、アイデアを形にしていくための入門講座です。



奥村さん
 県立東海高等学校

将来だけでなく、今自分の
 やりたいことを実現できる

高校生まちづくりスクール(以下、まちスク)へは、「自分のやりたいことを実現できる」というキャッチコピーにひかれて参加しました。活動する中で、自分の発想を具現化できる可能性を感じ、わくわくしています。

まちスクでは、私が考えたニュースポーツで村を元気にするプロジェクトに取り組んでいます。村の新しいロゴマークが発表された時、山田村長の「ロゴマークで遊んでほしい」という言葉から、この形をしたフライングディスクで子どもから大人まで、皆が楽しめないかと思いました。

一人ではアイデアを実現することは難しいと思っていましたが、まちスクでは、周りの大人が実現のために本気で話を聴いてくれ、また、一緒に動いてくれます。これからアイデアを形にしていくことが楽しみです。

推しポイント



会議=堅苦しいイメージですが、わかもの会議・まちスクではゆったりとした雰囲気の中で話し合います。



“やってみたい”を理想のままで終わりにせず、実現に向けて具体的なアクションプランを考え実践していきます。

― 東海村わかもの会議 ― 若者の声でまちを変えよう



若者世代が普段の生活や学校生活で、“何を感じ・考えているのか”率直な想いを聴き合い、ゆるくおしゃべりできる場です。高校生、大学生、専門学生が活動しています。



2



3

1_第1回会議の様子。村の資源や魅力について話し合っています 2_会議前のレクリエーション。声掛けなしで、誕生日順に整列できるかチャレンジ 3_村の魅力を書き起こしている様子 4_メンバーの集合写真。高校生から大学生、専門学校生まで幅広い層が参加し、活発に意見交換を行います



4

高校1年生の時に、先生からの勧めで参加しました。ボランティアや生徒会活動など、普段から面白そうと思ったことには積極的に参加してきましたが、わかもの会議には、それらとはまた違った楽しさがあります。

昨年には、「高校生が放課後に立ち寄れる場所が少ない」という課題から、仲間と協力してカフェを開設しました。店名は、ゆったり楽しめる場所にしたいという想いを込めて「Cafe Gently」に決定。オープン当日には、同世代を中心に多くのお客さんに喜んでいただきました。

私にとって、わかもの会議は心地の良い新たな居場所です。意見を否定せず、どうしたら実現できるかを話し合える空気が好きです。今年も、メンバーと一緒に新たなわくわくを実現していくのが楽しみです。

仲間と協力して「わくわく」を実現できる場所



高橋さん
県立東海高等学校



▲令和6年度の取り組みはこちら



▲Instagram



10月20日(日)、村長への企画提案発表会を予定しています(写真は令和5年度の発表会の様子)。



経験豊富なファシリテーターが伴走支援します。
「NPO法人わかものまち」土肥潤也さん(左)山本晃史さん(右)

東海村高校生会 自分の可能性を広げよう



2



3

1_東海村高校生会第51・52期生の皆さん。柔軟な発想力で楽しいイベントを企画します 2_がっちゃんに祭りでレクリエーションをしている様子 3_クリスマス会で子どもたちと一緒にポンポンツリーづくり 4_段ボール箱目掛けてネズミ形の風船を飛ばす新企画「ねずみを穴に追い返せ」



4



村内に在住・在学する高校生で構成されているボランティア団体、その名も「東海村高校生会」。イベントの企画から運営までを高校生たちが主体的に行い、子どもたちが笑顔になるイベントを開催しています。

小学生の時に参加した青少年育成東海村民会議主催の「自然体験学習の旅」で、初めて東海村高校生会を知り、当時は、運営側として活躍する高校生が輝いて見えました。その後、先輩方に誘われて入会を決め、今では会長を務めています。

高校生会の魅力は、仲間と共に一からイベントを創り上げていくことです。一番印象に残っているのは、自分が企画し開催したイベント「ねずみを穴に追い返せ」(写真4)です。企画書の作成や日程調整、関係者への報告や当日の運営など、準備期間はとても大変でしたが、当日、自分が企画したイベントを楽しんでくれる子どもたちを見ると、準備期間の苦労をはるかに上回る達成感を感じました。これからも、仲間と協力しながら、楽しいイベントを開催していきたいです。

一番の魅力は自分のやりたいを形にできること



高際さん
県立日立第一高等学校



▲HPIはこちら



▲Instagram



人との出会いを通じて、積極性を身に付けることができます。



仲間と協力して、イベントを企画・運営する楽しさがあります。

推しポイント

― 東海高校との連携 ― 地域の魅力を学ぶ「総合的な探究の時間」



村と東海高校は令和6年にフレンドシップ協定を締結し、さまざまな分野で地域と連携した取り組みを進めています。連携策の一環として、2年生の総合的な探究の時間で、高校生が村の魅力を動画にする授業を行っています。



2



3

1_フィールドワークでの動画撮影 2_村の魅力を学ぶ授業で、村内出土の土器に触れている様子 3_著作権などの動画制作における注意点について、外部講師から授業を受ける生徒たち 4_東海消防署で取材をする生徒たち



4

令和5年度の「探究の時間」に、「東海村の中学校魅力度対決」をテーマに動画を作成しました。チーム内での「出身校以外の学校のこつって知らないね」という会話からヒントを得て、撮影に臨んだのですが、取材がとにかく楽しかったです。東海中学校、東海南中学校にご協力をいただいて、授業にも参加させてもらい「スタディサポーターの手厚さ」や「自校式給食のおいしさ」など、当たり前だと思っていたものが村の大きな魅力だと、再発見できました。

最後に動画コンテストで入賞できたことはもちろん、地元の良いところを見つけたこと、チームで協力して一つの動画を作り上げたことは、良い経験となりました。今年の2年生の作品も楽しみにしています。



▲入賞動画はこちら

地元の魅力を再発見できた



チーム「キャプテンしょーた」の皆さん
県立東海高等学校



▲令和6年度の取り組みはこちら



▲「いばたん」の詳細はこちら



「茨城の魅力を探究し発信する高校生コンテスト(通称：いばたん)」に応募します。



公共施設やお店を取材！地域の大人へインタビューをして、魅力を深掘りします。

推しポイント